



活動の内容は多様。イチゴ農家で、収穫が済んだ苗を抜き取る作業を手伝ったことも(2015年6月27日撮影。アミイファクト提供)

その後、福島県郡山市内の入浴施設で汗を流して帰路についた。

15回目の参加という男性が言った。「最近は大學生の参加が目立つ。『近頃の若者は』という批判をよく耳にするけど、日本もまだまだ捨てたものじゃないですよ」

大學生といえば、震災当時、多感な中高生だった世代。参加した大學生の一人が、「何かしなければと、あの日からずっと思っていた。5年近く経過してしまっただけ、ようやく被災地に来られた。

少しは役に立てたかな」と顔を紅潮させていたのが印象的だった。

そんなことを思い出しながら帰りのバスの中で思ったのは、ボランティアは、できることをすることが大切ということ。事実、今回のツアーでも、きつい力仕事は大學生や中年の男性が主に、高齢の女性はそれを応援するという場面があった。

後日、牛橋地区の齋藤智博区長に電話で補足取材をすると、「地区住民の平均年齢は約70歳。あのような作業は無理なので、本当に助かります」と感謝の言葉をも

らった。ボランティアはやはり今も必要とされている。それを実感したことを報告しておこう。

文・写真／松本浩行



昼になったら、特製弁当で腹ごしらえ

作業現場のすぐそばの線路は、2016年末に運転再開予定の常磐線 浜吉田-相馬駅間のもの



## アミー号で行く!東北復興応援バス

1万1800円の参加費には、往復のバス代、特製弁当(昼食)代、入浴施設利用料が含まれる。リピーター割引制度があり、2回目は500円、3回～9回目は1000円、10回～14回目は2000円、15回目以降は2500円が返金される。問い合わせは、☎050・3533・6500(「アミイファクト」バス予約受付センター)



東京駅丸の内口(和倉倉門交差点)で、参加者を待つアミー号